

いっく うっく

厳し美しいの里



だより



発行者：厳し美しいの里協議会
(会長 小岩次男)
(事務局)

〒021 - 0101

一関市厳美町字沖野々116 - 6

一関市厳美市民センター内 鈴木

TEL29 - 2205 FAX29 - 2251

genbicc.jp



令和6年8月1日発行第23号



山谷分館を震災学習拠点へ

『一関じもっと基金』

厳美市民センター山谷分館を震災学習拠点にし、岩手宮城内陸地震を語り継いでいきたいという思いから、山谷地域振興協議会さんが、「一関じもっと基金(共感寄付)」にエントリーしました。

今年で2回目の開催となる『じもっと基金』とは、

誰かの活動に共感し、応援する「公益的な活動を支えていく仕組み」

‘地域のために何かやりたい人’と‘それを応援したい人’を結ぶローカルな基金です

詳しくは、じもっと基金のパンフレットをご覧ください、下記 URL からご覧ください。

<https://ijimoto.jp>

※パンフレットは厳美市民センターにもございます。

厳し美しいの里協議会で開催した震災資料展示室地域住民お披露目会には、多くの方々においでいただきましたが、震災資料展示室が更に充実することで、震災遺構祭時大橋や市野々原などを含めた厳美地域が震災学習の場となることを目標に、今後も地域の皆さんとともに活動を継続してまいります。



お披露目会に向け、力を合わせ準備中



6/15に開催した、お披露目会の様子

伝え残したい 厳し美しの風景 「きらり・ひかる」～山谷編～



厳美地区福祉活動推進協議会山谷支部主催により、コロナ過を経て4年ぶりに三地区（厳美5、6、7民区）交流会が開催された。

30名程の方が参加し、久しぶりの集まりに、笑顔と会話の花が咲いていた。

主催者あいさつでは、支部長の佐藤さんが、あらためて地域の皆さんとの交流を深めていただきたいと会の趣旨を話されたほか、山谷分館について、市の公共施設等総合管理計画において、施設保有の見直しが行われ、山谷分館は地元自治会等への無償譲渡が検討されており、一昨年から住民説明会が行われている。岩手宮城内陸地震の震災資料展示室として、市にとって必要な施設となるよう活動を続けるため、地域の協力を求めている。

区長、民生委員、保健推進員が世話人として紹介され、いよいよ始まった交流会では、FMM コモラズ（60～70代が参加し、家に籠らず、身体を動かすことを目標に集うグループ。昨年、地ビールまつりでもダンスを披露している。主に学習交流館（赤荻）で活動。）の皆さんによるダンスや歌が披露された。

コモラズさんのダンスに合わせて一緒に体を動かし、オカリナの伴奏で懐かしの歌謡曲を歌った後は、会食と会話を楽しみ、旧交を温めていた。

コモラズの皆さんや取材に伺った私に、気軽に声を掛けてくださった山谷地区の皆さんの優しさや朗らかさ、絆の強さを感じた一日となりました。

編集後記：今年も猛暑となり、各地で記録的な暑さが続いています。ここ数年、この時期になると一閃の気温が全国ニュースで流れるのを目にするようになりました。

今や一閃の夏も暑い!!ということで、暑い日には「無理をしない」こと心掛けるようにしています。

決して庭の草取りがイヤで、怠けている訳ではありません…。(鈴木)

